
赤と月と魔法使い

あき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤と月と魔法使い

【Nコード】

N7252X

【作者名】

あき

【あらすじ】

Fate/EXTRAと魔法先生ネギま！のクロスです。他のTYPE-MOON作品も出てくるかもしれませんが。EXTRAの主人公とセイバーがネギま！の世界へというものです。

主人公がほとんどオリ主化しています。（原作でどんな力あるのかわかんなかったし・・・）
基本ネギま！の原作に沿っていきます。

処女作なので拙い部分が多々あると思いますが、読んでくださると

うれしいです。

更新は不定期です。
百合です。

原作を一部ブレイクするかもしれません。

プロローグ（前書き）

始めましてあきとといいます。

小説は初なので拙い文章だとは思いますが、読んでくださるとうれ
しいです。

ではごっご。

プロローグ

△インセル
聖杯へ願いは伝えた。

これで漸くすべてが終わる・・・なのに何故私は消えていないのだろう・・・。

本来私はNPCなのだから中枢にアクセスしたらイレギュラーとして消されるはず。願いを伝えるぐらいの時間はあるかもしれないと思っていたがそれも終わっている。

なら何故まだ聖杯の中を漂っているのか・・・消えるのなら早くしてほしい。

でないと願ってしまう。『彼女と居たい』と。

最後まで私といてくれたサーヴァント。聖杯戦争中、告白紛いな台詞を言ってきた彼女。その時は苦笑したが結局私も彼女に惚れていたのだろう。消える間に自覚するなんて・・・でも、これはかなわない思い。私はもう消えてい

「よいのではないか奏者よ。」

彼女、セイバーの透き通った声が聞こえた。一瞬惚けてしまったが何故ここにセイバーがいるのだろうか？ 顔に出てしまっていたのかセイバーが

「奏者がどこにしようと思えば隣にいるのはあたりまえであろう」

平然と言つてのけた・・・こっちは自覚したばかりなのにそんな事言われるとすごく恥ずかしい。

「それよりも願つたらよいではないか。それが奏者の願いなのだろう?。」

「でも「死んでいるから、存在するはずがないから個人的な望みは願えない。などと言つつもりではないだろうな奏者よ」・・・」

先に言われてしまった。すっごい睨まれてる・・・。

「よいか奏者よ、余もすでに死んでおるし本来なら存在しないのだがそんなことは気にする必要はあるまい。今こうして余と奏者は生きておる。それで十分だ、願つてはいけななどとおるはずなからう?。」

本当にいいのだろうか、私が願つても。

「奏者は余と居たくはないのか?余は寂しい・・・」

・・・卑怯だ。そんな潤んだ瞳で見つめられたら願うしかないじゃないか。

「私もセイバーと一緒に居たいよ。」

もう迷いはない。セイバーが居てくれたらきつと大丈夫。

「ならば急がねば奏者よ、消えかかっている。」
「うん」

私たちは聖杯に願う

「セイバー（奏者）と居たい」

その瞬間私たちは光に包まれた・・・

プロローグ（後書き）

ど、どうでしょうか？こんな感じで大丈夫ですかね、非常に不安です。

これからネギま！の世界へ行きますが、あの願いで何で？と思うかもしれませんが作者の気まぐれです。深い意味はありません。

これおかしくね？などの指摘や感想をいただけるとありがたいです。作者は文才ないのでそこで勉強させてもらいたいです。

今月中に続きを更新しようとおもいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7252x/>

赤と月と魔法使い

2011年10月19日09時23分発行